

# 写真で見るOSNの歩み

## 定例会の開催のようす

### ◆第1回 2014年7月9日

大阪社会福祉指導センター

参加団体による自己紹介、「ネットワークをどのような場にしたいか」ワールドカフェなど

※当日「おおさか災害支援ネットワーク」名称が決定

33団体 56人

### ◆第4回 2015年7月6日

大阪府立大学 I-siteなんば

プレゼン大会（15団体…

「防災・減災啓発」、「災害・防災ボランティア」、「要配慮者支援／ネットワーク支援」）、交流会

54団体 93人



### ◆第6回 2016年2月16日

大阪府庁新別館 南館

大阪府の講演、河内長野市社協から報告、参加団体ワークショップ（災害VCロールプレイ）など

48団体 77人



### ◆第12回 2018年2月27日

大阪赤十字会館 301会議室

台風21号災害の統括、OSNの今後のあり方、集中豪雨に伴う大規模災害を想定したワークショップ。

38団体 53人



### ◆第16回 2020年2月14日

生協おおさかパルコープ

「台風15号19号での同時多発水害における長野県、福島県事例実践。災害時における広域ネットワークのあり方」をグループワーク。

37団体 55人



# おおさか災害支援ネットワーク規約

(名称)

第1条 このネットワークの名称は、おおさか災害支援ネットワーク(以下、本ネットワークとする。)と称す。

2 本ネットワークの略称は、OSN(オーエスエヌ)とする。

(目的)

第2条 本ネットワークは、大阪府域における災害発生に備え、平時より多様な市民セクターや企業・団体等が行政や関係機関と連携し、互いの活動や災害に対しての取り組み、課題を共有しながら、災害時には広域的かつ効果的に連携し、被災者支援を円滑に行うことを目的とする。

(活動内容)

第3条 第2条の目的を達成するため、次のとおりとする。  
2 平時に行う活動として、参加団体間の災害支援に関する学び合いと情報共有による“顔の見える関係づくり”のため、次の各号の会議を開催する。

- (1) 定例会
  - (2) 世話役会
  - (3) 関係機関との被災者支援のための連携会議
- 3 災害時に行う活動として、災害発生時に被災者支援を円滑に行うため、次の各号の会議を開催する。
- (1) 災害時連携会議
  - (2) その他災害時に必要な会議

(団体構成)

第4条 第2条の目的に賛同した市民セクターや企業・団体等の参加団体によって構成する。参加団体は、定例会の参加とメーリングリストの登録に努める。なお、個人及び反社会性勢力の参加は認めない。

(世話役団体)

第5条 第3条の活動内容を推進するため、参加団体から世話役団体をおく。  
2 世話役団体から代表を選出する。  
3 世話役団体から事務局となる団体を選出する。  
4 世話役団体から会計担当を選出する。  
5 本ネットワークの所在地は会計担当団体の所在地とする。

(運営・活動費)

第6条 本ネットワークの運営・活動費については、各種会議の参加費及び関連の助成金、寄付金等をあてる。

(その他)

第7条 この規約に定めのない事項は、世話役会において別途定める。

この規約は、2020（令和2）年4月1日から施行する。

「災害をテーマ」に学びと情報交換を行うネットワーキング

# おおさか災害支援 ネットワーク OSN

# OSNの特徴

- **合言葉**  
「まずお互いを“知る”ことからはじめよう」  
「『まいど!』でつながれる関係を築こう」
- **キーワード**  
『ゆるやかに』  
『マルチステークホルダー・プロセス型』  
(みんなの課題)
- **応援団とともに**  
「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」  
からの一部助成で実施(2014~現在まで)

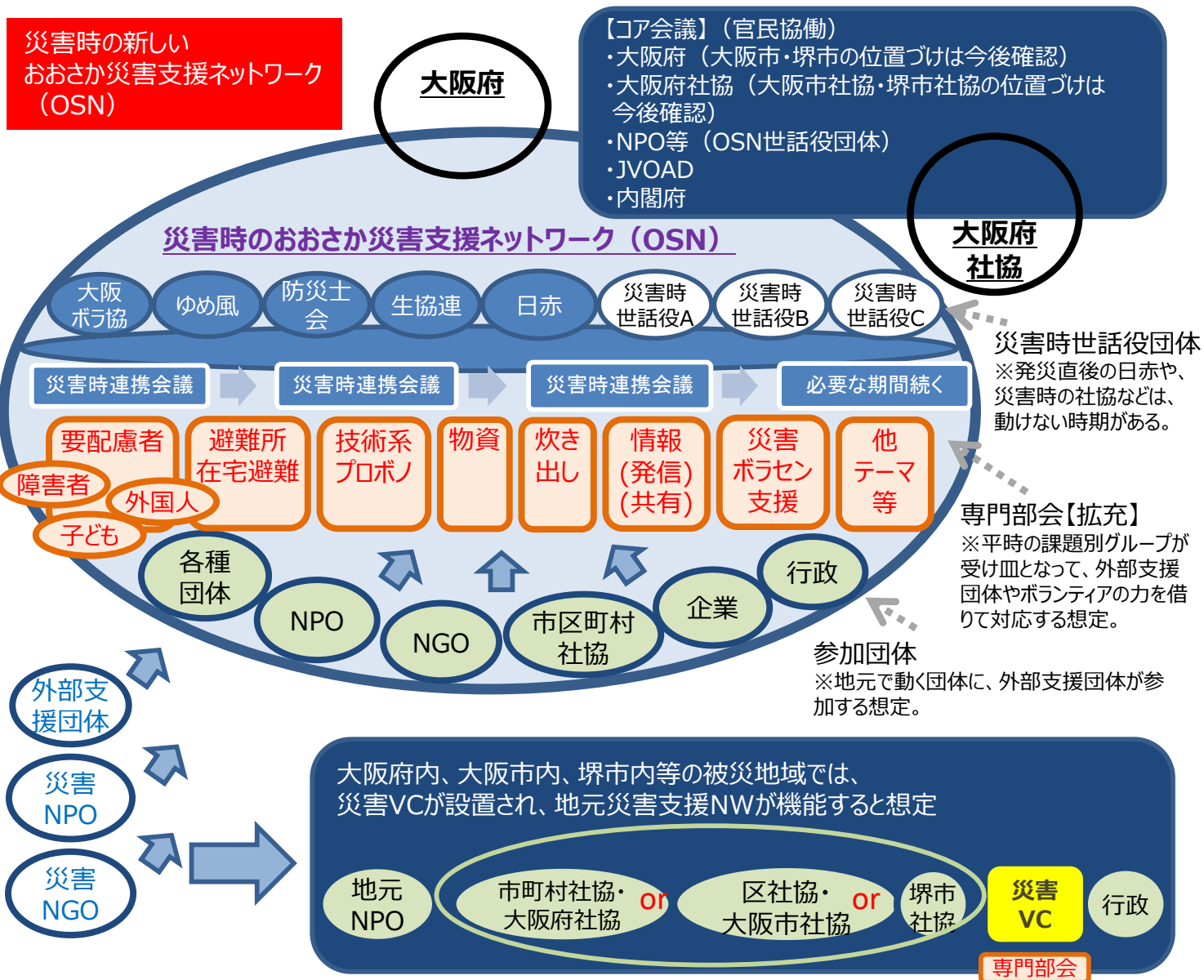
# 開催状況

- **頻度**  
ネットワークは、年度で2回。  
世話役団体打合せは、概ね月1回
- **合同研修**  
ネットワーク会議自体が**共に学ぶ場**となっている。
- **合同訓練**  
ネットワークとしての合同訓練は実施していないが、**参加団体間の協働**による「災害VC設置・運営シミュレーション」が開催された事例が生まれている。  
※ 2018年6月2日開催された「日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練」(大阪市会場)においては、**OSNとして参画**

# 世話役団体

- (福)大阪市社会福祉協議会
- (福)堺市社会福祉協議会
- (福)大阪ボランティア協会
- 大阪府生活協同組合連合会
- 日本赤十字社大阪府支部
- (特)日本防災士会 大阪府支部
- (認特)ゆめ風基金

# OSNの活動内容



- ①おおさか災害支援ネットワーク(OSN)災害時連携会議事務局は、災害時世話役団体より中核団体を選出する。災害時世話役は、その時に動ける団体で組織する。専門部会は平時の課題別グループが地元受け皿となって、外部支援団体やボランティアの力を借りて対応する。
- ②コア会議は、茨城水害の6者会議のような形で官民協働で情報連携、活動連携をする会議を想定。
- ③各市区町村は、市区町村またはブロックで、必要に応じて災害時連携会議やコア会議が開催される想定。OSN災害時連携会議の事務局は支援活動が促進するよう、内外の支援者を地元へつなぐ。